

「国際観光都市としての機能整備に関する研究会」の検討経緯

2016年12月8日	常滑商工会議所は本県に対し、「大規模展示場利用促進及び統合型リゾート研究の推進に関する要望書」を提出。
2017年6月26日	常滑市議会において、「統合型リゾート（IR）の誘致に向けた調査研究を進めるよう愛知県及び常滑市に働きかけを求める請願」（請願者：常滑商工会議所会頭）を採択。
2017年7月7日	常滑市議会は本県及び常滑市に対し、「統合型リゾート（IR）の誘致に向けた調査研究を進めることについて」の要望書を提出。
2017年8月1日	本県及び常滑市は、地元学識者6名に常滑商工会議所をオブザーバーとして加えた「国際観光都市としての機能整備に関する研究会」を設置し、常滑商工会議所及び常滑市議会から要望のあった統合型リゾート（IR）についても、調査・検討を実施。
2018年3月26日	研究会の意見の取りまとめにおいて、統合型リゾート（IR）については、「愛知県が目指すべき機能整備の方向性とも一致」しており、「日本型IRの活用について、愛知県としても検討を進めていくべき」と県に報告。 参考資料1-1 、 参考資料1-2

国際観光都市としての機能整備に関する研究会 取りまとめ

～MICEを核とした国際観光都市の実現に向けて～

平成30年3月26日

国際観光都市としての機能整備に関する研究会

1 基本的な考え方

～MICEを核とした国際観光都市の必要性～

我が国においては、訪日外国人旅行者数が5年連続で過去最高を記録するなど、観光産業は目覚ましい成長を続けており、その重要性が高まっている。

とりわけ、世界各国・都市で誘致合戦が繰り広げられているMICEは、高い経済効果が見込まれることに加え、新たなビジネス・イノベーションの機会の創出にもつながるなど、地域の発展に大きく寄与するものである。

こうした中、これまで日本のモノづくり産業の集積地として栄えてきた愛知県においても、その産業力と日本の中心に位置する地理的特性、優れた交通インフラ等の強みを活かして、2019年に開業を予定している愛知県国際展示場に数多くのMICEを呼び込んでいくことが重要である。

中部国際空港エリア（以下「空港エリア」という。）では、愛知県国際展示場の他にも、複合商業施設や新たな宿泊施設などの整備が進められており、魅力ある滞在型観光ゾーンを実現できる可能性が高い。

空港エリアにおいて、世界中から強力に人を惹きつけ、呼び寄せる国際競争力の高い、魅力的な「MICEを核とした国際観光都市」を実現する必要がある。

2 目指すターゲットや必要となる機能整備

国際観光都市として必要な機能整備を検討する上で、初めに集客を目指す対象者を明確にする必要があるが、国内外からのMICE参加者と訪日外国人旅行者をターゲットにするのが適切と考えられる。なかでも、MICE参加者としてはモノづくり産業に関連するビジネス客等、訪日外国人としては地理的に近いアジアや、滞在日数が長い欧米からの旅行者が主要なターゲットになると考えられる。

こうしたターゲットを見据え、国際展示場に近接して国際会議場等のMICE施設を整備することにより、相乗効果が期待できる。また、長期滞在型やハイクラスホテル、個性的なデスティネーション型ホテルなど多様なニーズに対応できる宿泊施設や、24時間楽しめ、アフターコンベンションにも資する多彩なエンターテイメント施設なども必要である。

国際競争力を高めていくためには、いかに愛知らしさの特色を出していけるかも重要である。そこで、世界中から人を呼び込む仕掛けとして、自動車産業やロボット産業を始めとする愛知の最先端技術を導入し、世界へその技術を発信できるモデル未来都市を目指すことが考えられる。

また、空港エリアだけではなく、地域一体として魅力を発信していくことも重要である。このため、昇龍道など、空港からアクセスできる各地の観光資源と連携するとともに、様々な地域資源の発掘・磨き上げを行い、この地域ならではの特色ある観光資源として育て上げていくことが重要である。

さらには、空港エリアから各地域に人を送り出す機能も必要である。空港エリアのコンシェルジュ機能の充実と観光地との連携を広域的に進め、周遊観光を促進することで、日本のゲートウェイとしての国際観光都市を目指していく必要がある。

3 統合型リゾート（IR）の活用について

海外では、MICEを中心に世界中から多くの人々を呼び込むため、国際会議場、展示施設、ホテルといった施設や都市機能の整備が進められており、その整備手法として、多様な施設機能が一体となった統合型リゾート（IR）を有効に活用しているところもある。

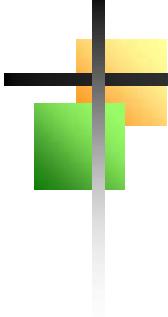
IRについては、現在、国において具体的な制度設計が進められているところであるが、MICE施設、宿泊施設、エンターテイメント施設などを一体的に整備することにより、MICEビジネスの確立や魅力ある滞在型観光を実現するものであり、愛知県が目指すべき機能整備の方向性とも一致しているため、その活用が考えられる。

この際、国が目指す日本型IRの活用について、愛知県としても検討を進めていくべきと考える。

4 今後に向けて

愛知県及び常滑市におかれては、地元の理解を得ながら、機能整備の具体化に向けて、今後、一層の努力をお願いしたい。

国際競争力の高い「MICEを核とした国際観光都市」の実現と日本をリードする愛知の未来に大いに期待する。



国際観光都市としての機能整備に関する研究会 これまでの議論のまとめ

- 1 MICEを核とした国際観光都市を目指す必要性 1ページ
- 2 機能整備の中心となる対象エリア 2ページ
- 3 集客を目指すターゲット 4ページ
- 4 ターゲットを見据えた機能整備のイメージ 5ページ
- 5 この地域ならではの特色 8ページ
- 6 周辺地域との連携 10ページ
- 7 機能整備の手法の検討 11ページ



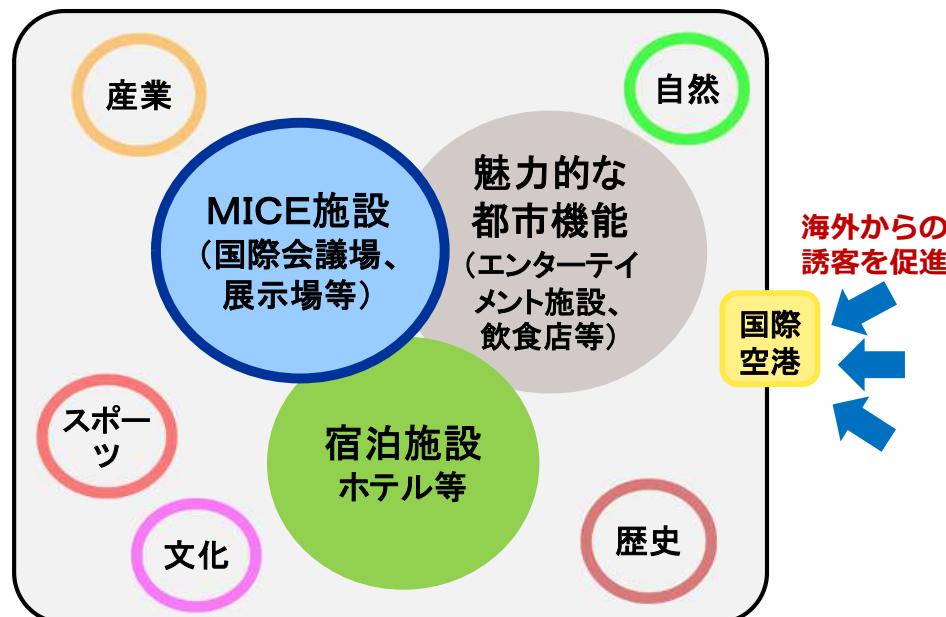
平成30年3月26日

1 MICEを核とした国際観光都市を目指す必要性

世界経済の中で観光産業は今後も伸びていく成長産業であり、中でも、付加価値の高いMICEを誘致し、世界中から多くの人を集める「MICEを核とした国際観光都市」を目指し、熾烈な都市間の競争が繰り広げられている。

- 日本一の産業県であり、優れた交通基盤をもつ愛知のポテンシャルを活かし、世界・国内の動向・潮流を踏まえ、中部国際空港エリアにおいて、これまで以上に魅力的なMICEを核とした国際観光都市を目指す必要がある。

＜MICEを核とした国際観光都市のイメージ＞



＜中部国際空港エリアの現状＞

- 国際展示場や複合商業施設、新たな宿泊施設などの整備が着々と進められており、国際競争力の高い魅力ある滞在型観光ゾーンを実現できる可能性が高い。
 - 空港島は陸路・空路とも整備されており、国内外からのアクセス利便性に優れている。
- ✓ アジアを中心に海外、国内主要都市からのアクセスは抜群
 - ✓ 名古屋市内から車で約30分(有料道路利用)
 - ✓ 名古屋駅から乗換なしのダイレクトアクセスで28分
 - ✓ 市街地からは物理的に隔離(島内は居住者なし)
 - ✓ 連絡橋(道路・鉄道)と船による限定的なアクセス

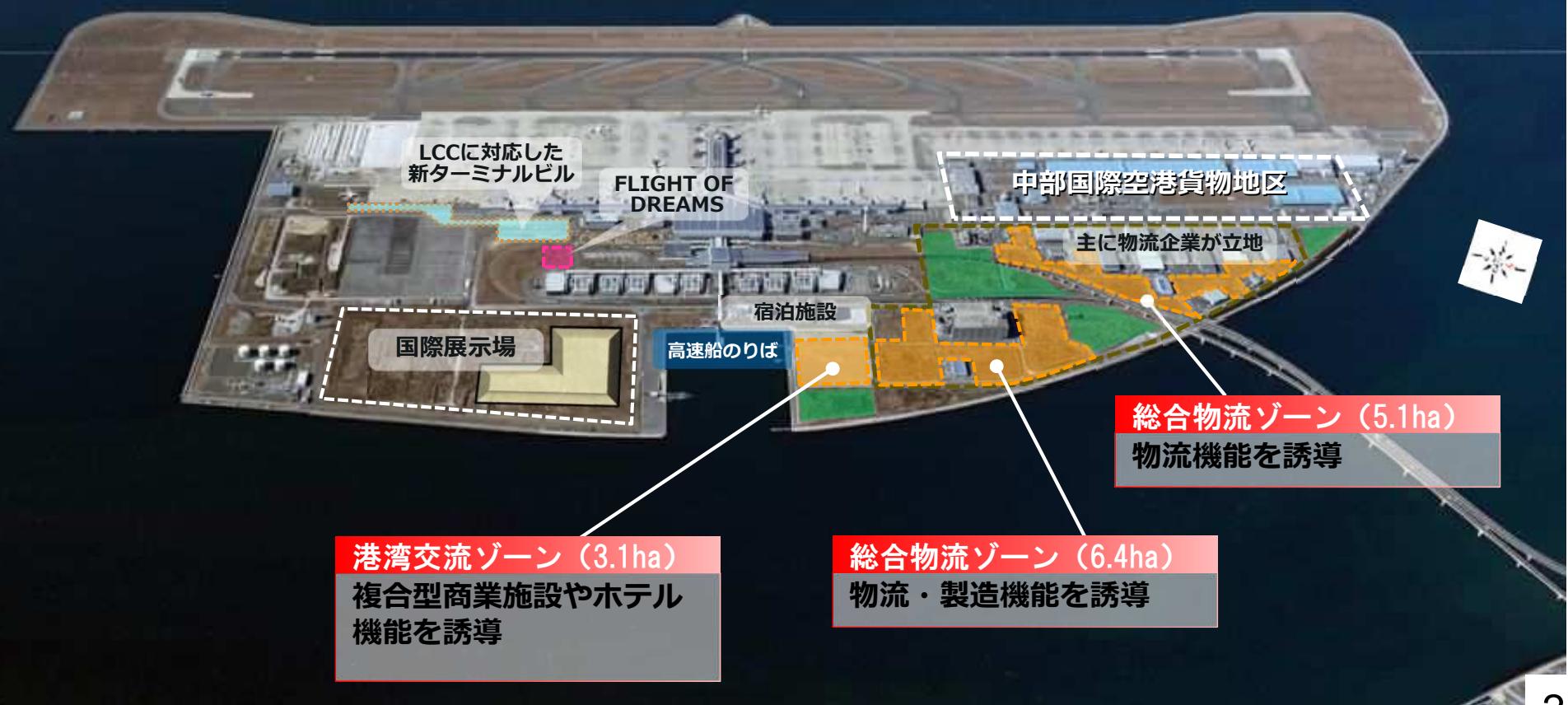
→空港島及びその周辺地域の活用を検討

2 機能整備の中心となる対象エリア(空港島)

空港島地域開発用地：約107ha
進出企業：24社

企業庁の分譲用地
企業庁所有の緑地

- ・企業庁の開発用地として、14.6haが分譲中。
- ・既に多くの物流企業と宿泊施設等が立地。
- ・国際展示場は2019年9月、複合商業施設である「FLIGHT OF DREAMS」は2018年夏整備予定。



2 機能整備の中心となる対象エリア(対岸部)



3 集客を目指すターゲット

機能整備を検討する上で、初めに集客を目指す対象者を明確にすることが必要

- 「MICEを核とした国際観光都市」を見据えて、「国内外からのMICE参加者」及び「訪日外国人旅行者」を主なターゲットにするのが適切と考えられる。

集客を目指す主なターゲット

(1) 国内外からのMICE参加者

- ・幅広いMICEを誘致することで、MICEに参加する多様な参加者を国内外から集客していく。
- ・とりわけ、本県においては、自動車、航空宇宙、ロボットなどモノづくり産業に関連する国内外のビジネス客や技術開発に関わる研究者等が主要なターゲットになる。

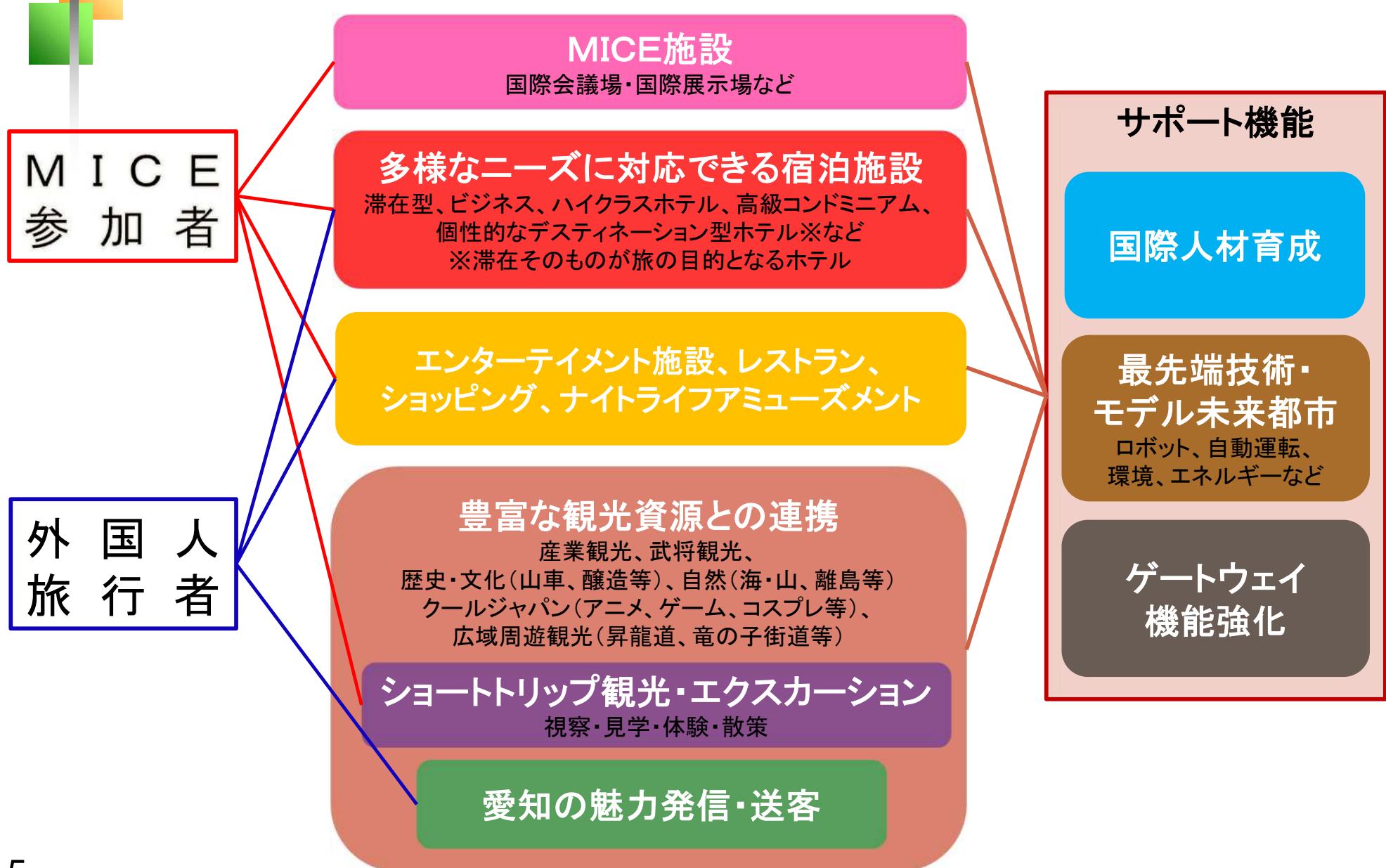
(2) 訪日外国人旅行者

- ・目覚ましい増加を続けている訪日外国人旅行者を幅広く取り込んでいく。
- ・訪日客数が多く、地理的にも近いアジアからの旅行者や、滞在日数が長い欧米からの旅行者が主要なターゲットになる。

今後、さらなる検討に向けての意見

- * 実際に機能整備を展開していく際は、訪日外国人は国別など、ターゲットを細分化して検討を進める必要がある。
- * 事業性を高める上では、国内観光客の取り込みも必要である。
- * 海外からの誘客には、大型クルーズ船が着岸できるような施設を造るのも一案である。

4 ターゲットを見据えた機能整備のイメージ①



4 ターゲットを見据えた機能整備のイメージ②

ターゲットを見据えた機能整備が必要

- 国際展示場との相乗効果が期待される国際会議場等の整備によるMICE機能の強化や、多様なニーズに対応できる宿泊施設、24時間楽しめ、アフターコンベンションにも資する多彩なエンターテイメント機能等の整備を図る必要がある。

機能整備の中心となる施設

MICE施設	<p>(MICE参加者)</p> <ul style="list-style-type: none">・様々なMICEニーズ及びMICE参加者に幅広く対応するため、国際会議場等のMICE施設を国際展示場の近隣に整備。 ⇒国際会議対応設備を備えた会議施設、レセプションホール など
多様なニーズに対応できる宿泊施設	<p>(MICE参加者)</p> <ul style="list-style-type: none">・長期滞在型のビジネス客や高所得者層に対応するための高級ホテルなど、空港周辺エリアにおける宿泊施設の多様化。・宿泊施設には、ハイレベルなビジネスセンターを整備。 ⇒長期滞在向けのゆとりあるビジネスホテル、ハイクラスホテルなど <p>(訪日外国人旅行者)</p> <ul style="list-style-type: none">・滞在そのものが旅の目的地となるような、高いデザイン性や、日本の文化が織り込まれるなどの趣向を凝らした宿泊施設を整備。・宿泊施設には、コンシェルジュ機能や広域エリアまでカバーした観光案内機能を整備。 ⇒個性的なデスティネーション型ホテル、高級コンドミニアムなど

4 ターゲットを見据えた機能整備のイメージ③

機能整備の中心となる施設

エンターテイメント施設、レストラン、ショッピング、ナイトライフアミューズメント

(MICE参加者)

- ・MICE開催地としての魅力を向上するためのアフターコンベンションの充実につながる施設を整備。
⇒劇場、美術館、産業博物館、小売店、飲食店 など

(訪日外国人旅行者)

- ・世界から人を惹きつけるための、日本、愛知の魅力あるコンテンツ(食、歴史・文化、ポップカルチャー、スポーツ、ホスピタリティ等)を活かした魅力施設を一体的に整備。
⇒最先端技術を活用した体験型アミューズメント施設、高級料亭、スポーツ観戦施設など

5 この地域ならではの特色①

国際競争力を高めていくためには、いかに愛知らしさの特色を出していけるかが重要

- 世界中から人々を魅了し、呼び込む仕掛けとして、愛知が誇る自動車産業、ロボット産業、次世代通信、環境、エネルギーなどの最先端技術を導入するとともに、最先端技術の実証実験の場としても活用し、世界へその技術を発信できるモデル未来都市を目指していくことが考えられる。

世界をリードする愛知の最先端技術～モデル未来都市を目指す～

〔最先端技術を活用したモデル未来都市のイメージ〕

自動運転

- 無人自動運転サービスを導入
 - ・自動走行車両を利用した無人タクシー
 - ・遠隔操作による車両隊列走行、駐車場への自動走行など

ロボット

- サービスロボットの実用化と導入
 - ・案内ロボット
 - ・荷物運搬ロボット
 - ・警備ロボット など

情報通信技術

- 情報通信技術等を応用した新たなサービスを導入
 - ・ヴァーチャル展示会や臨場感溢れるパブリックビューイングの開催
 - ・VR(仮想現実)などのアミューズメント利用

2020年の実現を目指して取組が進められている次世代移動通信システム(5G)等の活用により、各施設等を有機的に結び付ける。

今後、さらなる検討に向けての意見

* 民間企業とも協力体制を組み、常に最先端の技術を将来にわたり導入できる仕組みを構築

5 この地域ならではの特色②

空港エリアだけではなく、地域一体として魅力を発信していくことも重要

- 知多半島はもとより、県内の産業観光、武将観光、醸造文化、ポップカルチャー等の観光資源を始め、昇龍道など、空港からアクセスできる様々な地域の観光資源と連携し、地域全体として魅力を発信する。
- さらには、様々な地域資源の発掘・磨き上げを行い、この地域ならではの特色ある観光資源として育て上げていくことが重要である。

＜観光資源の例＞



知多半島



亀崎潮干祭の山車行事



あいち航空ミュージアム



伊勢神宮

©(公社)三重県観光連盟写真提供



白川郷



立山



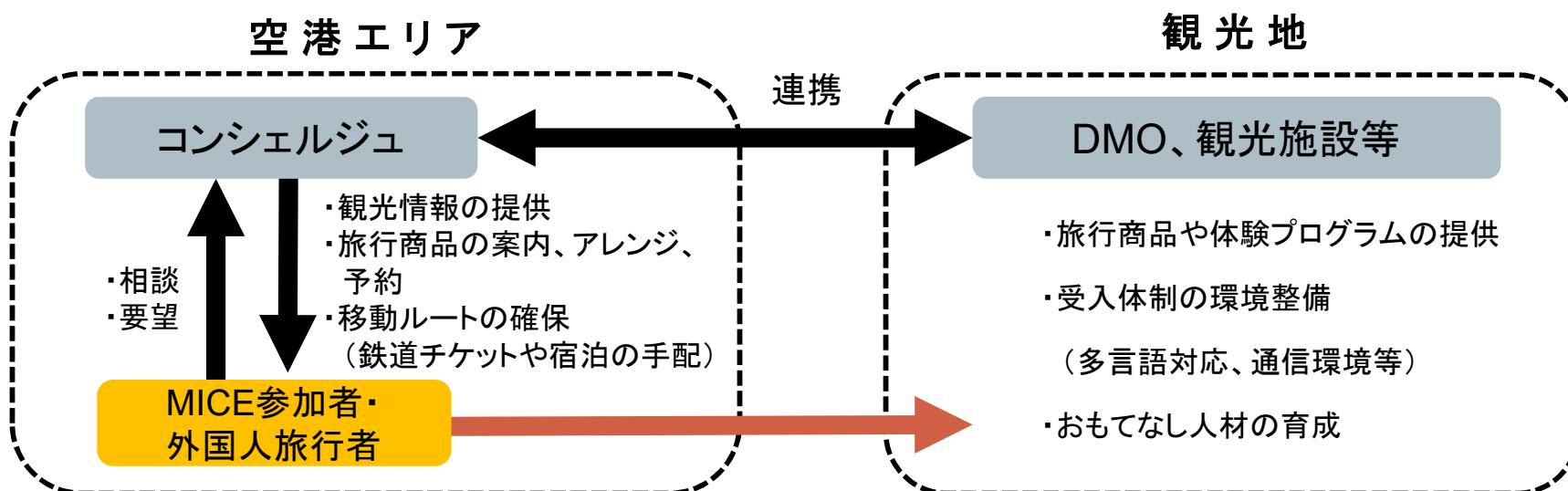
今後、さらなる検討に向けての意見

* 点在する観光資源を結びつけ、回遊させていく工夫が必要

6 周辺地域との連携

空港エリアに人を呼び込むだけでなく、各地域に人を送り出す機能も必要

- 中部国際空港エリアが旅の一つの目的地となるとともに、周辺地域との連携を進めることで、空港エリアを起点とした周遊観光を促進していく。
- さらには、空港エリアのコンシェルジュ機能の充実と観光地との連携を広域的に進め、空港でのワンストップ窓口により、スムーズな旅行を実現し、この地域、ひいては日本のゲートウェイとしての国際観光都市を目指す。



今後、さらなる検討に向けての意見

- * 空港エリアに、AIなど最先端技術を活用した旅のワンストップ窓口を設置
- * さらには、周辺の様々な観光資源から特に価値あるものを抽出し、その魅力をARの活用等によりショーケース的に見せてアピールし、周遊観光を促進する。

7 機能整備の手法の検討

- 海外では、MICEを中心に世界中から多くの人々を呼び込むため、国際会議場、展示施設、ホテルといった施設や都市機能の整備が進められており、その整備手法として、多様な施設機能が一体となった統合型リゾート(IR)を有効に活用しているところもある。
- IRについては、現在、国において具体的な制度設計が進められているところであるが、MICE施設、宿泊施設、エンターテイメント施設などを一体的に整備することにより、MICEビジネスの確立や魅力ある滞在型観光を実現するものであり、愛知県が目指すべき機能整備の方向性とも一致しているため、その活用が考えられる。

(参考)国が目指す日本型IR

- ・会議場施設、レクリエーション施設、展示施設、宿泊施設など観光振興に寄与する施設が一体となった施設で、民間事業者が設置・運営。

(特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律(IR推進法))

- ・日本型IR の目標は、民間事業者ならではの創意工夫を活かした、①世界で勝ち抜くMICEビジネスの確立、②滞在型観光モデルの確立、③世界に向けた日本の魅力発信である。

(特定複合観光施設区域推進会議(IR推進会議)とりまとめ)

今後、さらなる検討に向けての意見

* IRを活用するにあたっては、地域の理解や協力を得るため丁寧な説明に努めるとともに、その効果が空港エリアだけに留まらず、広く波及するよう取り組むことが必要である。